

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生活排水対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	4	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	環境課			
施策	211環境保全の促進	担当課室長	山崎 宏			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	生活排水浄化対策の取り組み、啓発活動を今後も実施する。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	啓発活動を強化し、さらなる水質改善を図る。
②①に基づく取り組み結果	手賀沼、印旛沼の水質は、ほぼ横ばいで推移している。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内主要河川(6河川):大津川、金山落、井草水路、中沢川、二和川、大柏川	意図(対象をどうするのか)	河川水質の監視
②事務事業の概要	水質を保全するため、水質調査や浄化対策を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	本市は手賀沼、印旛沼、真間川流域の最上流部にあたり、水質汚濁の防止に取り組む必要があるため、鎌ヶ谷市生活排水推進計画に基づき、施設整備及び水質汚濁の防止を啓発するとともに、公共用水域の水質監視体制に取り組んでいくもの。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	①水質調査: 市内公共用水域の水質調査を実施し、水質の把握に努めた。また、栗野地区に設置の家庭雑排水共同処理施設の維持管理を行った。 ②水質浄化: 手賀沼、印旛沼の著しい汚濁に対応するため、県をはじめ流域市町村との連携により、両沼の浄化対策に努めた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	大津川BOD値	6.4	7.3	6.1	mg/l	事業取得
	ii	井草水路BOD値	9.3	7.9	10.8	mg/l	事業取得
	iii	真間川水域BOD値	8.1	11.9	9	mg/l	事業取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	2,232	2,759	金額(千円)	内容		2,740	
国支出金(千円)			1,182	水質調査手数料			
県支出金(千円)			556	家庭雑排水共同処理施設保守点検委託			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,232	2,759					2,740

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	さらなる水質改善を図っていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	手賀沼・印旛沼・真間川流域の最上流部に位置しているため、水質調査の継続実施・監視に取り組む必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越
		H24⇒25繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由					
	平成26年度への繰越額(単位:千円)				

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	大気汚染・騒音・振動防止対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	3	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	環境課			
施策	211環境保全の促進	担当課室長	山崎 宏			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	大気汚染・騒音・振動に対する確な対応・指導を行い、届け出義務があることを周知することにより市民生活の充実を図るもの。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	専門的な知識が必要な航空機騒音測定や臭気環境測定を新たに実施する。
②①に基づく取組み結果	ホームページへの掲載及び窓口対応等で周知した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	各世帯	意図(対象をどうするのか)	静穏で快適な生活を送れるようにする。
②事務事業の概要	住民からの公害等への苦情相談や処理等を行うとともに、生活環境の監視等を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	関係法令により事業が定められており、現在、環境省では、環境基準や規制基準の制定当時に比べ、騒音を取り巻く環境や住民意識が変化していることから、騒音評価手法等の検討を進めている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	住民からの公害苦情の処理解決に努めた。平成25年度における処理件数は169件である。内訳では、大気汚染に関するものが41件(24.3%)、続いて騒音8件、悪臭6件、その他114件。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	生活環境(騒音・振動)の満足度	—	—	—	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	2,067	2,443	金額(千円)	内容	6,524		
国支出金(千円)			91	測定局電気料			
県支出金(千円)			806	大気環境マップ運用委託			
市債その他(千円)			733	航空機騒音実態調査業務委託			
一般財源(千円)	2,067	2,443	595	自動車騒音・面的評価業務委託	6,524		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	測定結果の活用方法について検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	法令等により市に義務付けられた業務であるため、今後も継続していく。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況	0	補正		0	現年分	
		流用・充当				
④未完了・非着手の理由	平成26年度への繰越額(単位:千円)					